

# 新 路

昭和27年3月15日

NO 7...

中野区新井町549 織本外科病院

「親和会」 tel (38) 5006

発行者 加藤 龜 吉  
責任者

## 会員の要望実現!!

- ◇ 毎月才三金曜日患者懇談会開催
- ◇ 自費 健保半額会員の医療費二割引

会員の皆さんに「親和会」に何を望みますか。最近の世論調査を行いました。その結果、

「患者懇談会を定期的に開催せよ」

「自費、健保半額会員の医療費の軽減を望む」という二つの意見が多数ありましたので二月十七日の幹事会において議題として討議致しました。その結果、

患者懇談会は毎月才三金曜日午前九時に開催することになり、懇談会当日は、レントゲン、赤児等の診療も実施することになりました。

また、自費、健保半額会員の医療費は下記の通り、二割引程度軽減されました。

の回答の中には

この二つの意見のほかに、  
一、アフターケアのホーク一步として内服を斡旋せよ、  
二、レコードコンサート、短歌会、俳句会を開催して戴きたい。

一、病院の玄関に外来患者の下駄箱を設けよ、  
一、培養の窓をおく場所をもつとさちんとつくれ、

等多くの意見がありました。これらの意見も今後、実行して行く予定であります。

なお、株園誌名は、従来通り「新路」で良いという意見が多数でしたので、「新路」と決定しました。

### (幹事会)

## 料 金 表

一般 会員

レントゲン(内)	六〇〇円	五〇〇円
遠視	一〇〇円	八〇円
培養検査	一六〇円	一三〇円
血 沈	五〇円	四〇円
胸	一五〇円	未定

(健保半額会員は会員料金の半額になります)

## 織本ズンドコ節

一、昔新井は無医村で  
かすり姿のねえちやんを  
お腹痛けりやま言聴と  
診断したそな大先生、ズンドコ

二、電氣メスに骨鉗子  
痛いすかといいながら  
ホリホリボキンと骨を折る  
切捨御免の若先生、ズンドコ

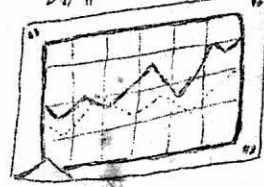
三、いくら大きな巾着も  
民生、保険じゃ月遅れ  
月の払いや塚血料

四、掃長、掃長と云われるが  
私もやつぱり女なの  
春はあけぼの秋は月  
誰にも云えない胸のうち、ズンドコ

註 昭和二十六年成形患者 鎌田茂さんの作詩です

「汽車の窓から手をにぎり」の管唄です。一月十五日当院病院記念日によせ、作って下さいました。

# 肺切除術



## 医師の場合

昨年夏、国立柳川診療所にフエイスタウンボジション（うつ伏せの体位）による肺切除の見学についてある。これは左上葉切除であったが七時間半の手術であった。私は最初の手術の入り方と学会でもかなり活躍して居られる先生の慎重な手法を随分得るところをもつて見学していた。しかし麻酔によつて患者は興奮し手術はなかなか大変だった。切除がすん

だあと私は大分疲れたので手術場を出ると家族らしい人たちから「手術はもう終りましたか」と風が吹いてええもうすぐですよと答えると二人を頼を見合わして「今日は早くてよがったね」と喜んでた。医局に入っ

てそのに先生に「肺切除は大変ですね。ここではあの先生は何例位おやりになつたんですか」と聞くと多分三十五例位だらうと云うことだった。手術時間ほどの位かと聞くと、「早いのもありますよ」とかくその日のうちに終るようになったんから大したものですよ」と云われたのを

宣えている。清瀬でもその頃は肺切除は小つう五時間から八時間の大手術で、やられる患者よりも医者の方が大分へげるといふ話をしあつたこともあつた。それからみると胸部外科は日進月歩である。六ヶ月後の現

況は肺切除は私を中心として、本病院従業員全体が手術患者の生物学的要素と社会的境遇をはつきりとつかんだ結果だと云えるであらう。ある時は万策つきはてて腕の脈をとりながら患者と二人で夜明けだけを待つたこともあつた。そして夜明とともに脈が蘇つてきた思い出もあつた。手術を全うするために悪戦苦斗した五つの例の手術だった。

# 苦闘一年

— 成形から肺摘へ —

副院長 織本正慶

在、私の病院では八例の肺切除を経験したが手術時間はその最も最短が二時間四十分で最長は四時間五十分であつた。

そして次にいふものは肺切除であつた。この小さな私立病院が手がけた事は肺切除が学問的な興味のみでなく、試験でなく、手術が既に危険なものになつたことを意味する。これは肺切除が結核治療の大きな武器として登場したことで謂わば肺切除術の普及化であるといいたい。

過去五つの例の成形術と其の死亡率、遠隔成績がサナトリウムに非ざる自宅療養でもきわめて良いということは何も偶然ではない。

そして次にいふものは肺切除であつた。この小さな私立病院が手がけた事は肺切除が学問的な興味のみでなく、試験でなく、手術が既に危険なものになつたことを意味する。これは肺切除が結核治療の大きな武器として登場したことで謂わば肺切除術の普及化であるといいたい。

最近伝えられるアメリクの最新発見は、わがわがのこの技術を更に一歩前進させるものとならう。

最近伝えられるアメリクの最新発見は、わがわがのこの技術を更に一歩前進させるものとならう。

集特稿肺

看護婦

の場合

手術室から

神戸婦長



「先生、電燈の位置はこれ  
で宜しいでしょうか？」

うにこまかく仕目の分相を  
定めて手術にのぞんだ。  
乳房の下をななめにメス

が走る、明るい電燈の下に  
赤い血が小さく出る。

白い脂肪の層がみえる。コ  
ツフェル、糸と交互に併わ  
れて結さつがつつく、肋骨

切除を終りやがて閉胸  
「時間をはかつて」  
声がかかる、心臓の鼓動が

きこえるようにはげしく返  
うっている肺の實質、血管  
気管としん重に結さつがす

すめうれてゆく、成形とち  
がつて進行が緩慢である、  
時々ドイツ語で応援に来り

れたN先生と副院長が言  
葉をとりかわす時は静寂

そのものである。汗が小さい  
ても小いても副院長の白い  
ひたいに小さく出る、よく小  
くと泡だつている酸素吸入  
器、血圧も好調、ブルスも  
好調、出血量も思ひのほか  
少い。  
やがて切除、紫色の斑臭  
におおられた肺がとり出さ  
れる、皆の目が一せいにそ

こにそまがれる。  
思いがけなく順調に、無  
事に終つた第一例、ほつと  
肩の刀がゆけ、安どの吐息  
がもれる。  
手術は終つた。だが着ゴ  
婦の仕事はこれからだ。頭  
の中で次の仕るの手續を考  
える。

結婚は理解ある人と

肺病患者として―相沢芳子

母の猛烈な反対にあつて  
勳当同様にして家を出て来  
ました。手術をうける時  
なつて母の顔を見た時の嫉  
しさは忘れられません。死  
んでもかまわないと誓括し  
て来たものの手術の前日に

け家に連れていつと泣い  
てガクをこねるほど恐怖が  
大きくなりました。手術が  
済んだ今になつてみればあ

り位の痛くなら最初から我  
慢で来たと思ひます。手術  
当日は度胸良く手術台に上  
つてみたものの縮み病院中  
て一番の脱臼ボリを發揮し  
てしまい今になつてみると

まきりが悪くて仕方があり  
ません。二度目の手術は安  
心してうけられました。病  
復になつて感じたことは病  
人になると子供になるとい

うこと、その代り人の親切  
を身にしてみても感じました。  
一人借わがままな私にいっ  
も手厚く行届いた看護士を  
て下さつた泉沼さん(附添  
さん)には感謝の言葉もあ  
りません。  
将来の生活に対する自信  
はまだはつきりしませんが、  
結婚についてのはのぼせるだ  
けのはして自体に自信があ  
てるようになったら理解あ  
る人となら結婚しても良い  
と思つています。手術をう  
ける直接の動機は子供をも  
つたお母さんが子供のたわ  
にとつていふようなものではな  
く自分自身が結核を克服し  
てそれから幸福を見出した  
いという気持ちからでした。

その第一段階として肺切除  
という大きな手術をのりこ  
えて、生きたいということに  
自覚することは何んともい  
えない喜びです。

特集 肺摘

肺摘才一例に附添つて

肺切除才一例は  
浅田弥生さんとい  
う患者さんでした

彼女はどうも気の大きい  
と申しました。さつぱ  
りしたお嬢さんでした。彼  
女のはがらかな性格は私を  
も明るく看護に従事させて  
くれました。

気管枝鏡も無事に済み、手  
術は七月十四日にさまりま  
した。ちようどお盆に入り  
ました。が「仏様と一諸和」  
などと冗談をいいながら手  
術台に上りました。心の内  
はどんなかしらと思ふと本  
当にお可哀想でした。当日  
になりました。用意万端と  
とのいいよいよ手術は始め  
られました。手術をする先  
生、血圧をはかる人、輸血

をする人、先生の汗をひき

とる人、仕事の連絡をする

人たちが皆でひとつになつ

て、しわがさ一つなく手早

く仕事はすすめられてゆく

弥生さんは麻酔がよくきい

ているのが静かに横たわつ

ている。やがて三〇分近く

いよいよ目的の肺が切られ

る。皆の目がいつせいにそ

こに集中され、かたずを吞

んでいる間に静かに除々に

切除された。明るい電燈の

下に黒っぽい血のふたまり

がせわれしやうに動いている

始めてまた生きている肺、

ただ感激と驚異あるのみ、

気管枝、血管の結ぶつも終

り再びもとのようにめい合

されてゆく。はじめに手術

室の中にも緊張したあととの

な、やがた空気が流孔手術

終つた。

肺切除あとのザウエルブ

ルツフ氏の 成形術も終り

膜神経切除術も終り四ヶ月

が夢のようにたつた。すつ

かり元気になつた彼女は、

「昨夜会社にお勤めにいっ

て倉庫に入ったら戸をしめ

られた夢をみたわ」とか、

「未婚にいつて赤ちゃんと

生んだ夢をみたのよなどと

すつかり前途に希望をとり

もどされたようでした。

退院されるときは本當

にお名残惜しかつた。

今肺摘才八例を無事に済ま

して次々と新しい手術にと

りくまれてゆく。本先生に

声援をおくると同時に手

術後のバトンを受けついで

私も看護婦としての役目を  
果したいと思ひます。  
(附添婦 蓼沼ユキ)

短歌

この医師に命托して

手術日に附添わるべき身寄なく

さびしくとして時を待ちおり

この医師に命托して横たわる

よし死するとも悔は残さじ

鉄棒をにぎりしめれば「楽にして」

肩先がろく医師のたたき、ぬ

麻酔よりさめれば痛さおせい末ぬ

身のおきんどころなき、この苦しむ

庫かれざることと知れども「おこして」と

又もせがみぬ 余り苦しく

(細谷 弘子)

訂正

才六号の新役員幹事氏名に、久納武文さんの  
名前を著しました。久納さんは、まだ安静四度  
なのですが、会則草案の起草者であり、御無理と  
願つて幹事になつて戴きました。



— 斗病物語 —

春の訪札

良医を得て



昭和二十五年九月二日、

織本病院の門を潜り、二十五日、才一次手術を受けました。そして、私にも、やつと、平和の春が戻つてきました。

発病と全時に通院気胸を始めて二ヶ月半、毎週一回五〇〇CCの気胸が出来るようになった時に、勤務先の幹事で辻堂のN病院に入院しました。二二日八日間に三回も気胸をし、その一回の量が六五〇CCという仕方、更に気胸針で神経を

傷つけられて、肋膜炎併発三九度八分の高熱、胸痛激しく寝返りも出来ずに、じつと寝ているという有様になつてしまいました。

院長は温湿布をするから

人を呼んで呉れというので毒を呼び、昼夜四時向歩き、の濡布をしました。乳呑子を預けた毒が乳を張らせて痛がりながらの半月、それでやつと痛みも落ちいで来ました。この間、病院ではサルプロ五CCを四回注射したのみでした。以上の次第で三ヶ月間気胸を中止しようとうつ癒着してしまいました。

その当座は医者を怒り、又、残された方法は外科手術

術のみと願われて、今後をいかに送ろうかと毎夜寝もやらず悩んでいました。

院長は「このまま固まる、

という私の外科手術に對

する意向に全然取りあつて

くれません。このような時

に院長から退院して働いて

も良いと云われた患者が國

立病院にて診察を受けて、

空洞を容見され、外科手術

をすすめられてきました。

このことがお養上の疑問を

もつ多くの患者をして國立

病院に出かけさせ、その大

部分の者が方針の誤りを指

摘されて帰つて来ました。

私もこれにならつて出掛け

ました。果して手術すべき

だと云われて帰つて来ました。

た。

保健同人、健康会議等を

読み、結構を早く治すため

には、信賴出来る医師を得

ることだ」と知らず、札先づ

才一番に選びましたのは、

国立病院でしたが、入院待

機期間一年とのことでした。

これでは待つてゐる間に

首を切られる運命になるや

も知れませんが、設備の整

つた病院、直ぐに入院出来

るところと較べ深く考えて、

探し廻り、最期の病院を

知ることが出来ました。款

書を手にし、踊り上り、母

出来ません。入院許可の葉

に、「この子は、背中を切る

のがそんなに抜しいのかね

と云われたものでした。

術後は囁詞な経過を辿り

たいとそれのみを願つて毎

日を送つて来ました。清瀬

病院の勤務と自宅病院の仕

事と、多分に多忙の中で、

私達のために休も間も惜し

んで研究を続けられる織本

先生に執刀して戴いたので

すから、先生に報ゆるため

にもと思ひ、安静度の守札

なかつた分をいかに補うか

を考えて、「睡眠不足が再発

の才一原因」より思いつき

まして、「遅起きは三文の得

という自説をつくり、毎日

十時毎睡眠主義を守つて参

りました。その力もあつか

つて、現在まで検査も培

養陰性です。

(不全 兎)

「この人生に」

若さ、うらはしさ、

この人生に

生きることは

一つの行である

聞いてある

そして

方である。

# 回復街道へ邁進



安藤 看子

無痛無熱の状態で五人の家族を介介えていた私が一寸した風邪だと思つて介介つた医者から右肺に空洞のあることを知らされ続いて検査、直ちに気胸を行いましたが助膿の癒着のため胸廓成形術を受けるようすすめられました、無自覚のうちに結核に犯され続いたのです。その当時私の結核に對しての知識といつては皆無に等しく増してや手術を受けるなどまるで死を宣告されたと同じ心持ちでした、主人には子供のたかに早く手術を受けるようすすめられました。

ただ、ただ手術が恐しく、ちゆうちよとしておりました。けれど傍で無心に遊んでいる子供を又る毎に此の子を明るく大らかに育て得る者は自分より他にないのだ。そして成人するまで見守つてやるのが母の責任だ。二、三時間の痛々と苦しむと我慢して救われるのなら……と遂に決心して手術台に上つたのです。手術を終えて二、三年、一進一退といいたがらどうにかこうにか日々を楽しく過しています。ここの一、二寸逆コースをたどつた私も安静四度で毎朝幼稚園にゆく子供を笑顔で内口まで送つてもやれます。ただ一つ一つのボタンですが洋服につけてやることもでき、

ます、こんなことが子供にとつてはこれほど嬉しいことだし、もし空洞のまま、で今日まで過していたら日夜高熱にくるしんでいたかもしれません。手術は結核治療に絶体的なものではないかもしませんが、

「まてまて子供が  
いるじゃないか」

笠原 きみ子

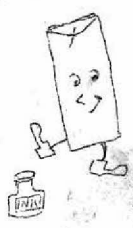
散々聴診器をいねくり廻していた医者に「アంత、こりや結核だよ、安静にしなさいイカン」と言われたのが我が病歴の第一頁、いつかはこんな事もと、かゝつて万全の注意は、はらつて来たのですが、とうとう肺病の袖印を押されては、流石に暢氣な私もまいりました。こゝろ、行く末を思い、眠られぬ夜も幾晩か續いて

んが回復街道への重要方面所のひとつ、ここを無事通過して安静法の道をおせ、すすめつくりとすすめましよう、何ものにもかえがたい子供たちの純粋な愛の声援にはげまされながら、(筆者は廿五年度手術患者) ……、しかしよくしたもので、二月、三月と治療生活を重ねて行くうちに、病に敵するとでもいうんです。我が、自分の病歴のことも苦にならなくなり、成行にまかせようという落付も出来、却つて健康人には会行列でさなない楽しさも味えるようになったになりました。と二、三がその後、手術をしなげれば、と云われた時には、脳天をカんとやられた気持ちになり、折角の心境も乱れ勝ちに、ウツウツとした日もありましたが、まてまて、子供がいるじゃないか、早く良くなる方法を講じないでどうするんだ、こんな心の声にはげまされると、そうだ、早く手術をしなくちゃ、トタンに目の前の道がサツと開けた思いで胸が軽くなりました。お介介で手術はさしたる苦しみもなく、至極順調に一年を経過しました。発病當時一年生だった子供はもう三年になりました、ああもうやうになりました、ああもしてやらう、こゝろもしてやりたいと、来るべき春の日に、胸に挿さつた針管に異念している現在です。



# 再び恵まれました

## 健康に感謝す



(加藤 小 じ 廿四等手術)

初めて手に致しました新  
路二月号により患者サーク  
ルの創立總會の開催されま  
したことを知り心からおよ  
ろ喜び申し上げます。お送り  
下さいました新路を読んで  
苦しかった日、悲しかった  
時、過ぎにし日の裡いに新  
たにいたしました。そして  
成形をして良かったと私は  
喜びで一杯でございます。  
再び恵れた現在の健康を病  
に感謝するとともに御世話  
になりました先生方に厚く  
御礼申し上げます。私がつく  
づく思いましたことは成形  
をなさいますにはまず手術

の悪化症であること、第二  
に外科手術に十分信頼ので  
きる先生を選ばぬこと、第三  
に手術後の受容を正しく守  
ること、この三つが完全に  
マツナギ、おなげれば成功を  
望む手術は期待できないと

### 一筆啓上

院長の巻

とかく年をとると  
若いもののやること  
は見ていこう札ない、  
そしてこまごまと話をヤ  
く。織本病院の院長にはこ  
れがない、二十代の自分の息子や  
副院長や息子の友人の事務  
長に経営の端を任せて干渉  
しない。これはできさうで  
できないことだ、織本病院

さえ思われます。今迄新し  
く手術を考うけになうれる  
方に幾分なりともの助言に  
なれば幸いと存じます。

私の入院中附添で御世話  
になりました松田君様さん  
御元氣で御仕事におはげ多  
のことと存じます。くれぐ  
れもよろしく御伝之下さい。  
あまりにも嗜しき花なり  
木ばさ女を待ちてしはし  
思いまどえり

が二十代の若さと明るさを  
もっているといわれるの  
原因はこの辺にある。冗談  
をとばしながら外来患者と  
術后患者の処置をひきうけ  
ているくらいで猿轡ともな  
ると土曜から日曜にかけて  
狩獵に出かけるのを無上の  
樂しみにしている。新井町  
に外科医院を開設してから  
三十年余り、首賜の神様と  
噂される位の腕キキである。  
(兒島記)

# 雨ニモカテズ

## ホツタタテオ

雨ニモカテズ  
風ニモカテズ  
雲ニモ  
夏ノ暑サニモカテヌ  
弱イ体ヲ持テ  
ワガママテ  
イツモフシク怒ッテイル  
總ガ深ク  
アラユルコトラ  
自分本位ニ考エ  
医者ヤ家人ノ  
云ウコトラ聞カズ  
家ノ中ニイテモ安静ヲ守ヌ  
東ニ面白イ映画ガアレバ  
ノコノコ見ニ出掛ケ  
西ニオイル二十個ノ  
パチンコ屋ガアレバ  
行ツテ煙草ヲ稼ギ  
スバスバ喫イ  
南ニカストリ雑誌ヲ  
売ッテイレバ  
冒ツテキテ深夜マデ  
読ミフケリ  
此ニウマイ酒屋ガアレバ  
行ツテガブク飲ミ  
時々マシヤウラ喰ベスキテ  
腹ガ痛イ痛イト云ツテ  
涙ヲ流シ  
ツラヌ事デ友人ト口論シテ  
四十度ノ熱ヲ出シ  
オロオロアワテ  
ミンナカラ  
シューアラ起スノハ  
アタリマエダト云ワレ  
邪魔者扱イニサレ  
妹ワレル  
ソウイウモノニ  
ワタシハ  
ナリタクナイ



# 私は籠の鳥

## — 氣胸患者として —

いですっかり消氣、最早餌を一つくことも放棄し、茲に無氣力者になり勝たことも一応は背けられるに違いない。

だから盲人が介つて常人以上の聴覚を備えているように、吾々は自分の劣つた体力に補つて、健康な一般人と出来るだけ同等な社会生活を可能にしてくれる何らかの能力——技術と環境——を創り出さねばならぬまい、自由と解放への郷愁はそのことによつて何と小慰められようというものが、

(小浜 久八)

早春

吐息もらした口つきに

わかれしひとの

しのぼれぬ

唇なほ浅きまそがが

がが又たうづる口つきは

わかれしひとの

しのぼれぬ

い。

氣胸からの解放はとりもなほとぞ結核からの解放の前進を意味する。その日への焦燥と幻想が非人情な氣胸針との長い間のおつきあいを我慢もさせ諦めもさせるのであるが、こゝでもう一度籠の鳥は考える。現代医療の水準が病気の根本的治療、即ち健康線への完全な保障を保障していない以上、結核からの解放は所詮程度の問題であり吾々は一生不自由ではないかと、即ち一種の不具である。「不自由を常と思え」という訓へを嫌々ながらも唇々服膺しなければならぬ訳だ。しかしこう考えてみると私は余りに自分だけに同情しな

患者といつても氣胸患者は最も幸福な者の一人である。だから彼等のうちのある人は手術患者にこの上なく同情しながら昔の健康体へ帰れる日を辛棒強く待ちわびている。それはある程度十分現実的な期待であるのでこの楽観的な希望はともかく祝福されてよい。ぐももつと多くの氣胸患者は定期的な赤況や痰痰検査の結果に冷やくししながら、万一悪化したら粗板のような手術台の上に寝なければならぬかも知れぬ不安に戦みつつ、通常の健康な人生を羨望の眼で眺めているのではないだらうか。手術患者の激動的ではあるがしかし

一回限りのあつさりした医療の後に訪れる望まない所ののじつくりした落付のある諦観に較べると、氣胸患者はそわ／＼した野心家かも知れない。自己の病状に樂觀的であればあるだけ健康体へのヤキモチが湧こうし、他方悲観的であればあるほど益々インウツな焦燥に襲われ易いというものだ。しかし患者をユウウツにさせるのはこのことだけではない。それは半年や一年ではなく、二年三年、場合によつては四年五年の長期に亘つて毎週、嫌でも病人であることを意識させられ

てしまうようにせつせと氣胸台の上に乗らねばならぬことである。その上更に氣胸療法によつて招来し易いあらゆる病体の機能変化、即ち慢性肋膜炎、膿胸、胃腸障害、自然氣胸等々に度しつて常性不斷に氣を配らなければならぬ。樂觀論者でさへ飽きが来るといふもの、まして悲観的な患者などはいさゝか精神衰弱氣味になるのも尤もではないか。手術患者のように劇的で決定的な経験は少く、それだけにある程度自由な行動が許されてゐる吾々が恰も籠から飛出したがる小鳥の如く自由な解放感にひたりた

いという誘惑にかられるのも、或いは又その籠の枠の思いもよらず強取なのに驚

# 生活相談

この度生活相談欄をもうけました、これは養生活を続けるうえで皆さんがお困りのいろいろなことについて御相談に応じようとするものです。担当は今回は幹事の久納武氏にお願いました。問題は所持の方は親和会生活相談欄宛に書面で御出し下さい。なお、誌上発表の場合匿名にします。

## 問

私は昭和二十五年五月末に織不病院で成形手術をして現在安静度六度の自宅を養をしている者です。家庭は養父母及び妻と子供二人の都合六人暮りですが、退院右半年あたりから養父母との折合が悪くなり、私は病人の立場上出来るだけ受身に成り済むよう心掛けてはいるのですが、事毎に病人の安静を妨害するよくな無理難言が多くなり、果ては「どこかへ出てゆけ、病人の顔など見たくない」等の言葉迄まく

## 答

貴方は家庭において孤立無援の状態です。お話しの様子ですと、養父母とは一朝一夕には仲直りは望めそうもありませんし、頼みとする奥さんも御両親の考えに同調して貴方にとつて少くとも積極的な味方ではないようです。親御さんの態度よりむしろ奥さんのこのような態度に私としては重大なものを感ずるのですが、この問題ははまだ養の途中にある貴方としては解決を先へ延ばした方が賢明のように思います。

それで差し当りとするべき方法は、安静をオーとする養生活と相容れない家庭の雰囲気から早く自由になることであり、そのためには養所に入る事が最良の方法ではないかと考えます。貴方は手術後の経過も良好で、もう暫くの静養生活で仕事に復帰できそうなので、今後二年間は給料を貰える権利があるのですから、市の向ミツシリ安静一途に返進して休転期限が切れるまでに社会復帰できるような体力を取もとすことに、オ一義の命題とし努力することの方が最も合理的な方法ではないでしょうか。幸い織不病院と連絡のある養所のうち一ヶ月位で入所できるのがあるようですから、病院へ直ちに幹事方申し出られたらよいでしょう、この際いままでもありませんが貴方の病状及び一年先の健康回復の見込等医師上の問題についてはこの際主治医先生に充分相談の上、所についてOKをとるべきです。

入所され、一年后に社会復帰できるように回復されたら、右の家庭問題は貴方の肚一つで解決できる奥体策があることを私は確信しています。それは又そのときに改めて御相談にのることにして、今は只「さあ、尼寺えし(レエークスビヤア)ではないが、養所へ一日も早く「逃避」することに努力すべきでしょう。

また養所に入所してからも方一家族の方々が貴方の安静を妨げるような言動をなすことがあつたときは、貴方が望むならば、私は、親御さんや、場合によっては勤勞先の上司の方に面会して、貴方の公正な利益を護るために努力を致します。

(担当) 久納武氏





詩

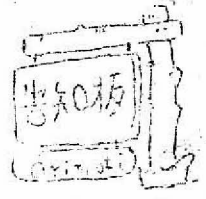
あがるい娘ら

わたしの心は  
かなしいのに  
ひろい運動場には  
白い線がひかれ

あがるい娘たちが  
とびはねている  
わたしの心は  
かなしいのに

娘たちは又な  
小つくらと肥えていて  
手足の色は  
白くあついろは

あわあわしい  
栗色をしている  
そのまやしな理などは  
ちようど麻のようだ



☆ 看護婦赤津ゆき子さんが二  
月から勤務してあります。別  
名マダムバタフライ、沐浴  
の良いえるからに看護婦が  
かたじけなく慕われし。

婦さんです。どうも、  
く、この地は、  
んさん、雑役に勤解由小く  
さんが新しく勤務しました  
ようしく。

◇ 一月二十七日・  
オ一回幹事会出席  
者 加藤 堀田  
久納 福井 小洪  
戸根 井上 織本  
長尾 神戸 児島  
各幹事及田島  
各事業計画の責  
任者を決定、新路  
編果について打合

◇ 二月十七日  
オ二回幹事会、出席者  
加藤 堀田 久納 福井  
小洪 戸根 井上 織本  
長尾 神戸 各幹事及田島  
各論調査の結果を検討  
別項の上り懇談会の件反  
医ヲ骨髄減について決定  
☆ 織本院長顧問就任  
幹事会を代表して二月十

◇ 看護婦赤津ゆき子が新  
しく勤務してあります。どうも、  
よす、別名マダムバタフライ  
とマリブジンのピンからも  
らつたのでございませう。  
を御座います。おちたおの田采  
を御座います。

◇ 看護婦赤津ゆきさんと神戸婦長  
との間にこの度結婚がと  
つきました。おめでとうの目  
とで、おめでとうとございま  
せん。近々新築を待つ手  
定です。この御座人に祝福  
あれ。

◇ 一月二十七日・  
オ一回幹事会出席  
者 加藤 堀田  
久納 福井 小洪  
戸根 井上 織本  
長尾 神戸 児島  
各幹事及田島  
各論調査の結果を検討  
別項の上り懇談会の件反  
医ヲ骨髄減について決定  
☆ 織本院長顧問就任  
幹事会を代表して二月十

◇ 二月十七日  
オ二回幹事会、出席者  
加藤 堀田 久納 福井  
小洪 戸根 井上 織本  
長尾 神戸 各幹事及田島  
各論調査の結果を検討  
別項の上り懇談会の件反  
医ヲ骨髄減について決定  
☆ 織本院長顧問就任  
幹事会を代表して二月十

病院月報

2月の活動状況

在院患者数

結核 一級

定員 二〇名 十三名

月始 二〇名 十二名

月末 二〇名 十二名

手術施行数

胸部成形術 二六例

肺切除術 四名

胃切除術 一例

虫様突起切術 三例

本号はそれ等の意見を注  
かし、編集部一同、全力を  
盡くして編集致しました。

本号に討する御意見も是非  
お寄せ願います。

次号には、先行法特集  
を予定しております。

なお、前号の佳作賞とし  
て、両側成形の体験記を書  
かれた、小林強さんには謝  
書を贈呈致しました。

編集後記

前号に対する御意見を  
女なさまから頂きましたと  
ころ。

一我々の広報にフランスにな  
る記事が欲しい。

一編集印刷をもつとうまく  
やつていただきたい。

一文字的な原稿が欲しい  
等々、多くの批判  
をいただきました。